

訃報



雨田 實先生 美唄

平成22年 6月26日逝去

雨田 實先生は、昨年10月頃より体調を崩され入院御加療中でしたが、6月26日薬石効なく、午前7時35分、ご家族に見守られながら88年の生涯を閉じられました。病名は食道癌でした。

雨田先生が美唄歯科医師会第4代目の会長に就任されたのは昭和47年のことでしたから、平成8年に退任されるまで25年間本当に長い間会長として献身的に会のためにご尽力されたこととなります。この25年間、私にとっては意外に短く感じられたのも、先生がそれだけ存分にご活躍をされ、極めて充実した25年であったからでございましょう。その功績が認められ、昭和59年に美唄市市政功労賞、平成6年には日本歯科医師会会員有功章、平成9年には北海道歯科医師会会員顕彰を受賞されております。この会員顕彰は、郡市区歯会長25年以上にして初めて対象となる極めて名誉ある賞であります。その先生の終始一貫した地域医療の向上に貢献される強烈な精神には、いつも畏敬の念を強くしていたものであります。平成10年には、歯科保険事業功労者として厚生大臣表彰の運びとなった時、推薦者として書類の取りまとめに関与させていただいた事が昨日のように思われてなりません。

雨田先生の歯科医師としてのご功績については、枚挙にいとまがないところであります。会長職退任後は、ご家族との交わりを一層深める傍ら、町内会の役員と会長を歴任され、また美唄ロータリークラブの会員として一時期超我的奉仕を勉強された時もありました。また、学生の頃は陸上部に籍を置き、正月恒例の箱根駅伝に参加されたともお聞きしております。毎朝のジョギングや木刀の素振り、冬はスキーと健康に対する思いと情熱は、我々歯科医師会の模範とするところでありました。まだまだお元気で、後輩を見守り続けていただけるものと思っておりましただけに、誠に残念でなりません。

先生は、東京下町のお生まれで、和服の似合う浅草風流人と思わせる風格と多彩な趣味をお持ちでした。犬の飼育、園芸ではランの栽培、将棋、俳句とお酒を召し上がる程に話が弾み、時にはさのさ、都々逸を歌われ粋なところを披露されたこともありました。

まことに懐かしく思い出されます。

思い出はつきず、惜別の情は深まるばかりでございます。二度と会うことのないこの世の無情を悲しみと共に噛み締めております。

今ここに雨田 實先生の御霊が安らかに浄土にあり、最愛なる奥様はじめ、ご遺族の皆様、そして後輩たちへの御庇護を賜りますよう、頭を垂れ心から哀悼の意を表しご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

(寶崎錠二記)